

秘境秋山郷素朴な観光おもてなし事業

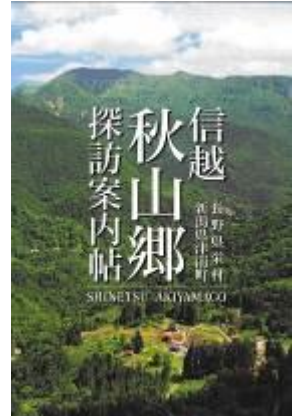
取組に至る背景・事業の目的

長野・新潟県境に位置する秋山郷には、厳しい風土ゆえの独特の生活習慣や文化が息づいており、かつては「秘境の地」として名を馳せたが、新潟県中越地震、豪雪、長野県北部地震と相次ぐ自然災害に見舞われ観光客が激減し、また住民の高齢化や後継者不足もあり地域の活力が失われつつある。

そこで、長野県北部地震により活動を休止していた秋山郷の民宿・旅館等の関係者が中心となって行ってきた「秋山郷観光振興に関する意見交換会」を改め、平成 25 年 11 月に「信越秋山郷会」を設立。昔ながらの素朴なおもてなしと新たな観光資源の発掘を目指し秋山郷の振興を図った。

事業内容

- 秋山郷総合ガイドブックの作成
県境をまたいだ秋山郷の総合的なガイドブックが無かったため、地元住民が中心となり編集し「信越秋山郷探訪案内帳」を 30,000 部作成、宿泊施設や観光案内所のほか平成 27 年 3 月に開業した北陸新幹線飯山駅に配布した。
- 名物料理コンテストの実施
伝統料理や郷土食などその土地でなければ食べられないものにスポットを当てた食のコンテストを実施、44 点の応募があった。
(うち新潟県 29 点、長野県 13 点、県外から 2 点)
- 名物料理講習会の実施
長野県が開発した特産品「信州サーモン」を名物料理として開発するため、料理関係者、宿泊施設関係者等を集め研究した。
- 栃の実キーホルダーの作成
かつて秋山郷では貴重な食料の一つであった栃の実を、秋山郷を訪れた証として観光客に記念品として提供するため、キーホルダーを作成した。



【秋山郷総合ガイドブック】



【名物料理コンテスト】

事業効果

- これまで栄村と津南町がそれぞれガイドブックを作成していたが、行政の枠を超え両町村を一体化し「信越秋山郷」として紹介したことにより、訪れた人にとって見やすい、使いやすいガイドブックとなった。
- 食のコンテストには地域外からの応募も多数あり、また平成 26 年に認定された「苗場山麓ジオパーク」にちなんだ名称の応募作品があるなどジオパークの PR にも貢献した。
- 食のコンテスト最優秀作品については宿泊施設等において試験的に販売を始めており、新たなお土産品として販売拡大を進めている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ガイドブックの編集にあたり、住民参加のワークショップを数回開催したところ、住民の観光資源への意識向上、ガイドの育成等につながった。

【選定のポイント】

県境をまたいだ観光連携が進み、住民参加のガイドブックづくりや名物料理講習会など観光地としての郷土に対する愛情とプライドを感じる事業であり、更なる発展が期待できる。

団体名 信越秋山郷会（栄村） （事務局）栄村商工観光課 連絡先 0269-87-3333	事業タイプ ソフト事業 事業費 2,744,248円 支援金額 2,018,000円
--	--